

普及と啓発の取り組みについて

平成21年(2009年)3月10日

滋賀県流域治水政策室

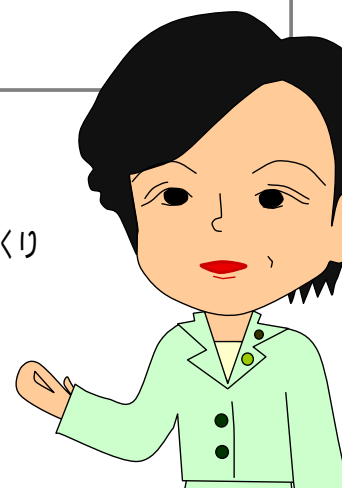
審議していただきたいテーマ

『流域治水の県民への普及と協働で取り組む方策について』

- 「しがの流域治水」とはそもそもどういう考えなのか？
- 誰が、誰に伝える(普及する)ものなのか、誰と誰が協働するものか？
- 県民ひとりひとりが水害のリスクを正しく認識し、自らも水害に対峙する覚悟を持ちながら、地域、市町、県、国がそれぞれの役割を果たし、協働するためには、私たち(行政・専門家・住民)にどのような努力が必要なのか？

そこで、普及と協働で取り組むための活動・工夫

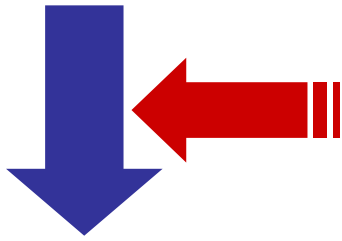
- つなぎ(主体間、世代間)とひろがり(老若男女)の仕組みづくり
- 知識・知恵の蓄積とわかりやすい発信
- 協働のきっかけづくり
(例えば、行政職員等の専門家がひとりの住民として参加)



1. しがの流域治水

これまでの対策

一定規模の洪水を河道内で安全に流下させる（氾濫する頻度を減らす）



近年顕在化している課題

河川整備の限界（気候変動，超過洪水）
 危機管理の限界（情報氾濫，経験不足）
 地域コミュニティの脆弱化
 （水防組織の衰弱，少子高齢化）
 水害意識の低下（無関心，行政依存）

これからの対策

（水害に対する危機管理）

【治水対策の目的】

人々の命を守る **最優先**

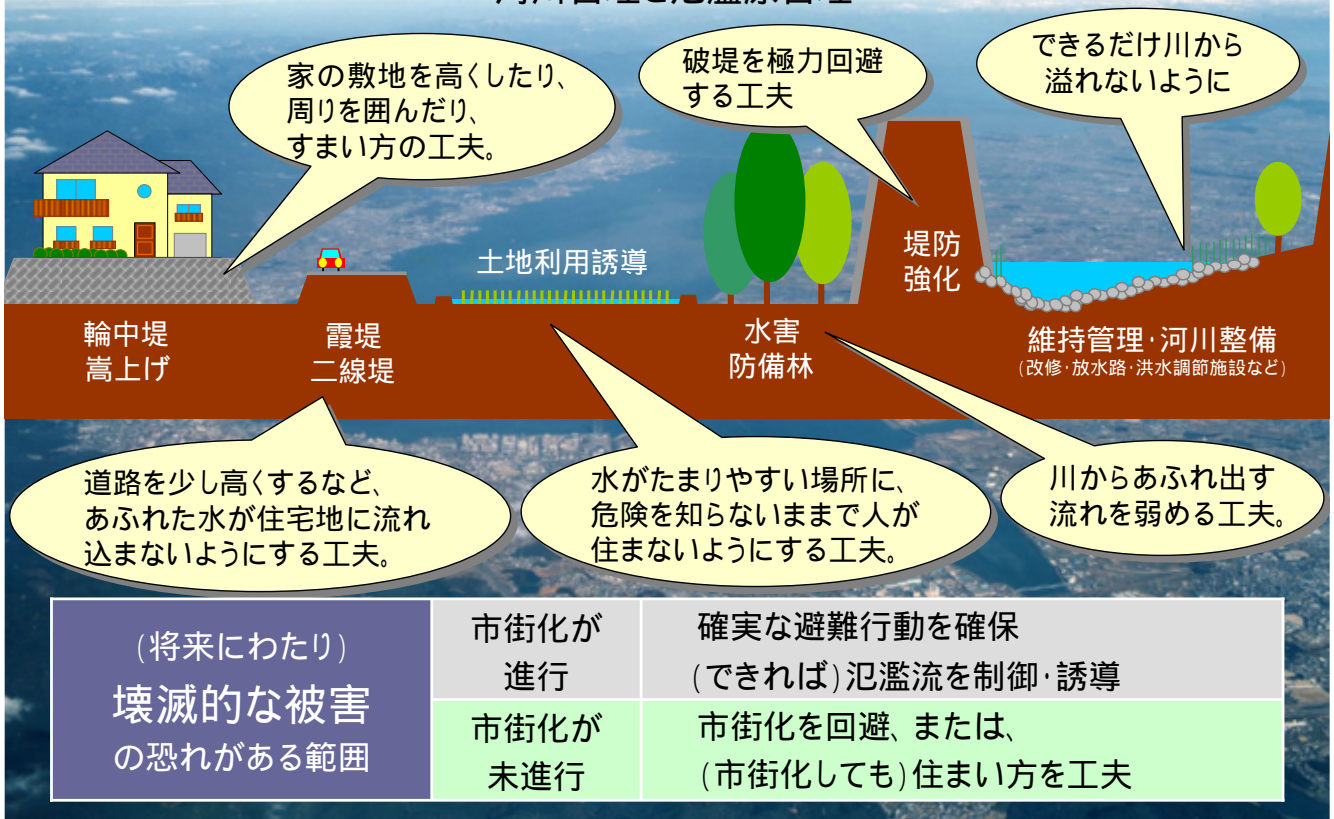
床上浸水のような壊滅的な被害を防ぐ

これまでの治水対策に加え、自助・共助・公助を組み合わせ、ハード対策とソフト対策を連携し、対策を進める。

3

しがの流域治水

～ 河川管理と氾濫原管理 ～



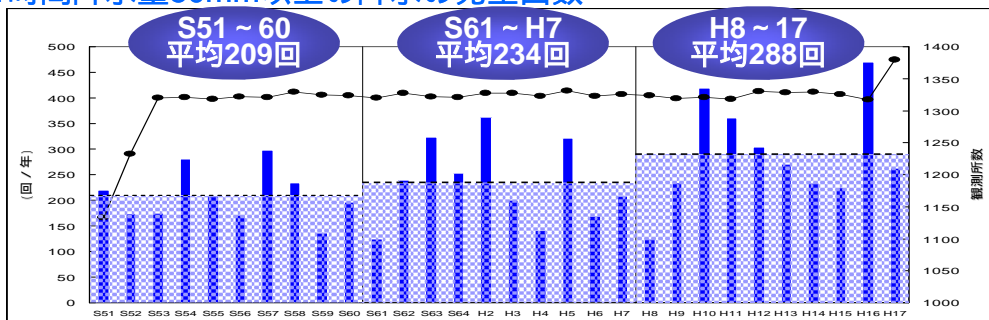
2. 知識・知恵の蓄積と発信

7

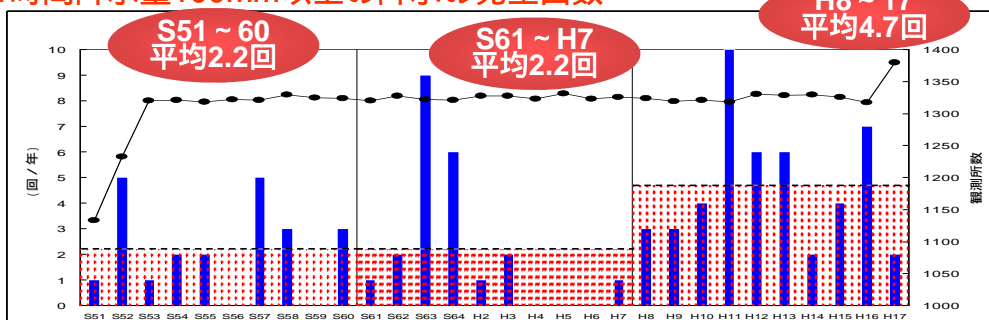
知識・知恵の蓄積と発信

～ 気候変動の影響と水害リスクの評価～

1時間降水量50mm以上の降水の発生回数



1時間降水量100mm以上の降水の発生回数



全国のアメダス地点約1300箇所の、1時間降水量の年間延べ発生件数

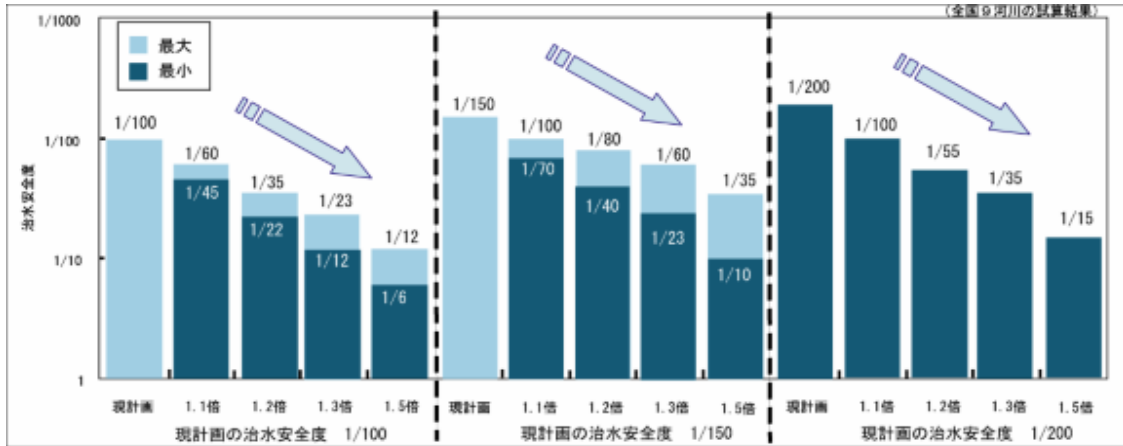
出典) 国土交通省HP

8

知識・知恵の蓄積と発信

～ 気候変動の影響と水害リスク評価～

100年後の降水量の変化が治水安全度に及ぼす影響



降水量の変化を予測すると、100年後には現在のおおむね1.1～1.3倍、最大で1.5倍程度を見込むことが妥当

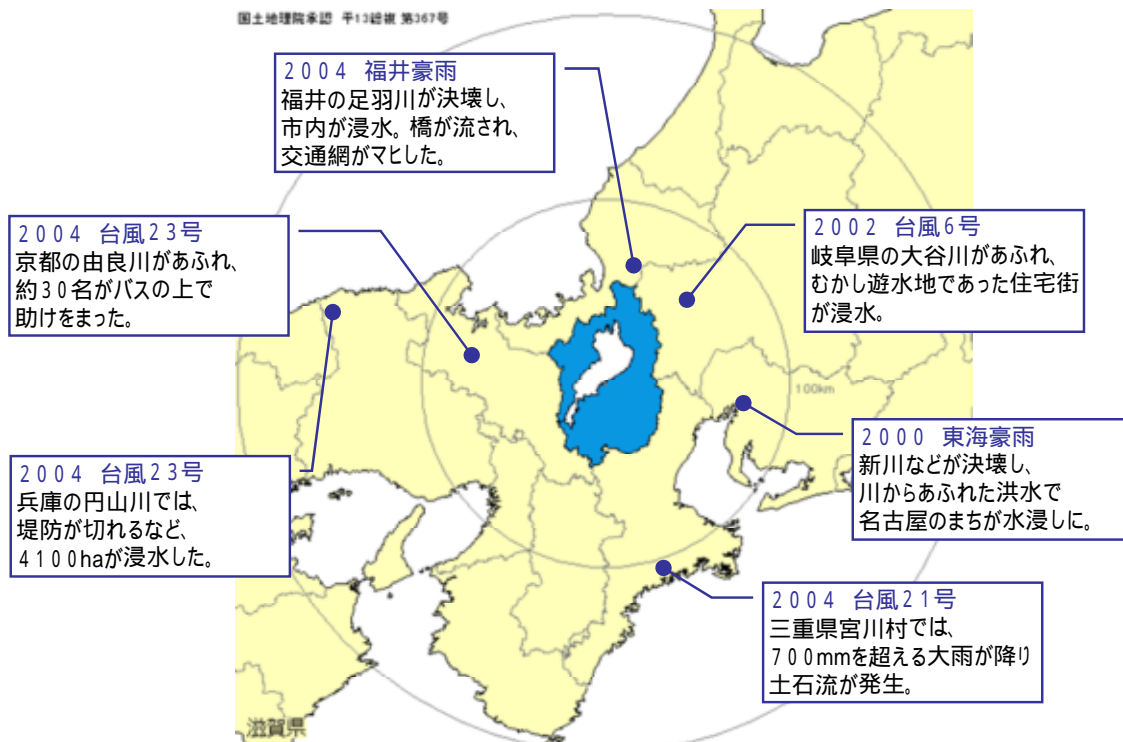
降水量の変化によって、
現計画が目標としている治水安全度は著しく低下していく

出典)「地球温暖化に伴う気候変動が水関連災害に及ぼす影響について」H20.1 国土交通省資料

知識・知恵の蓄積と発信

～ 滋賀県の周辺で発生した近年の水害被害～

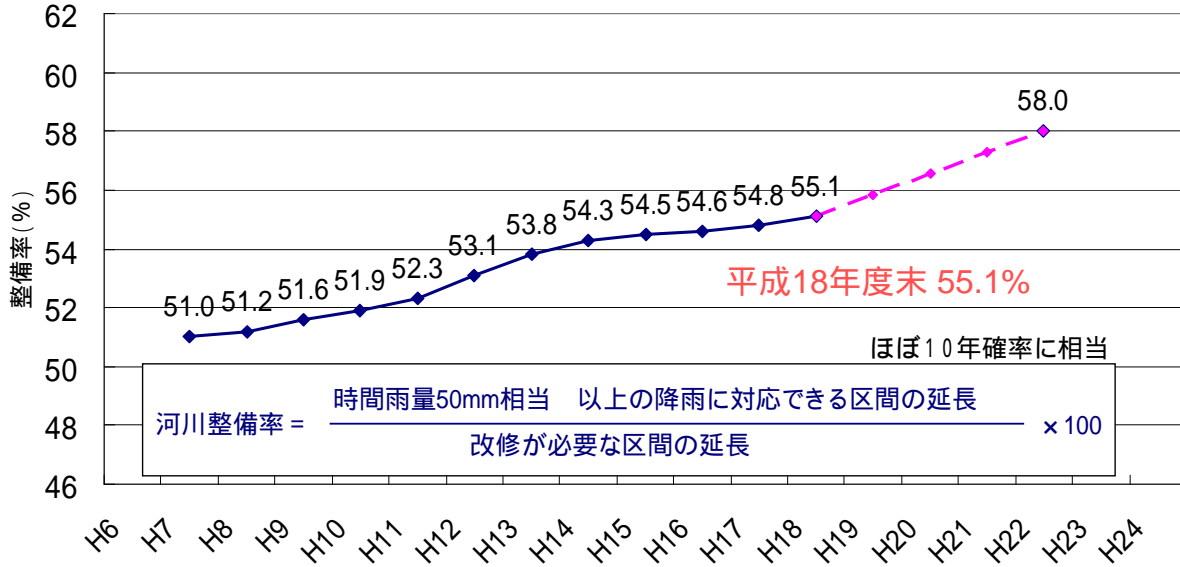
国土地理院承認 平13経産 第367号



知識・知恵の蓄積と発信

～ 滋賀県の河川整備状況・見通しの公表～

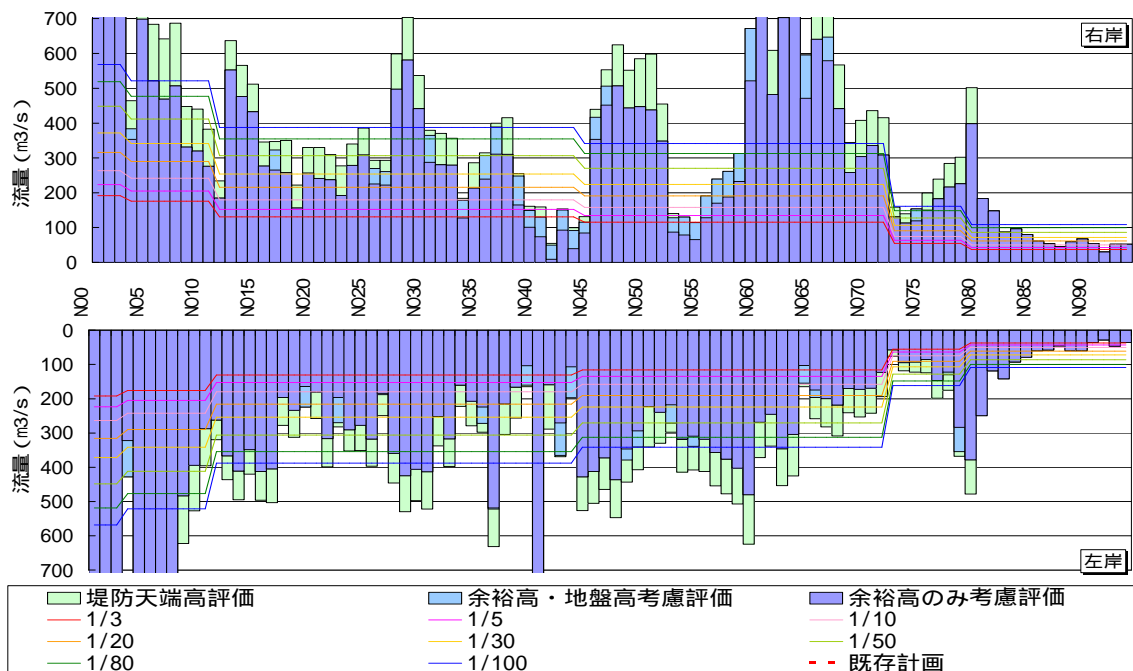
一級河川で10年確率の治水安全度を確保するには今後60年以上を必要
(残事業費6000億円/年間予算95億円(H9～H18の平均値)/年)



知識・知恵の蓄積と発信

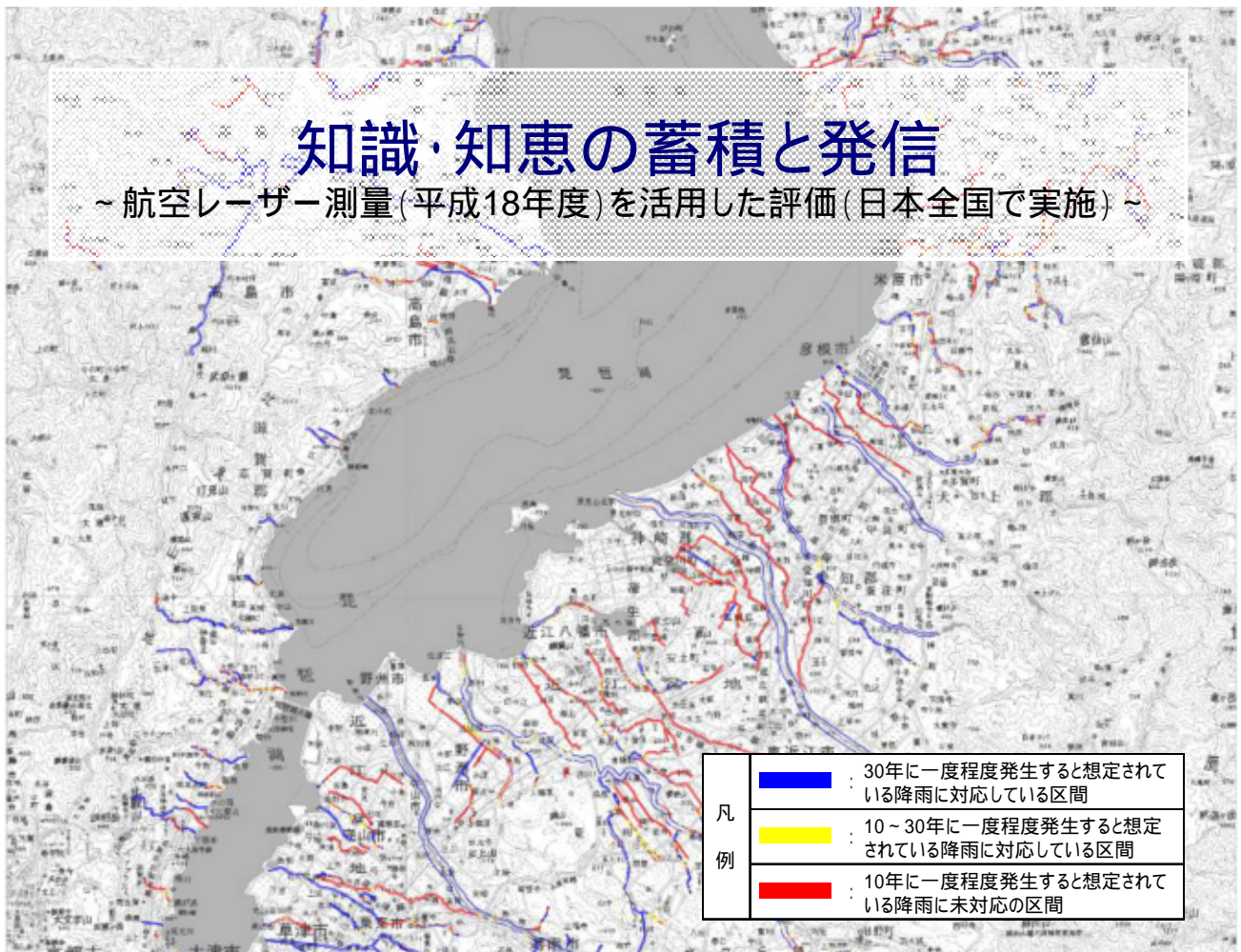
～ 河川の安全度、約240河川を対象に実施～

- 県管理の主要河川(約240河川)で、最新の河道データを使って、流下能力の実態を再調査。

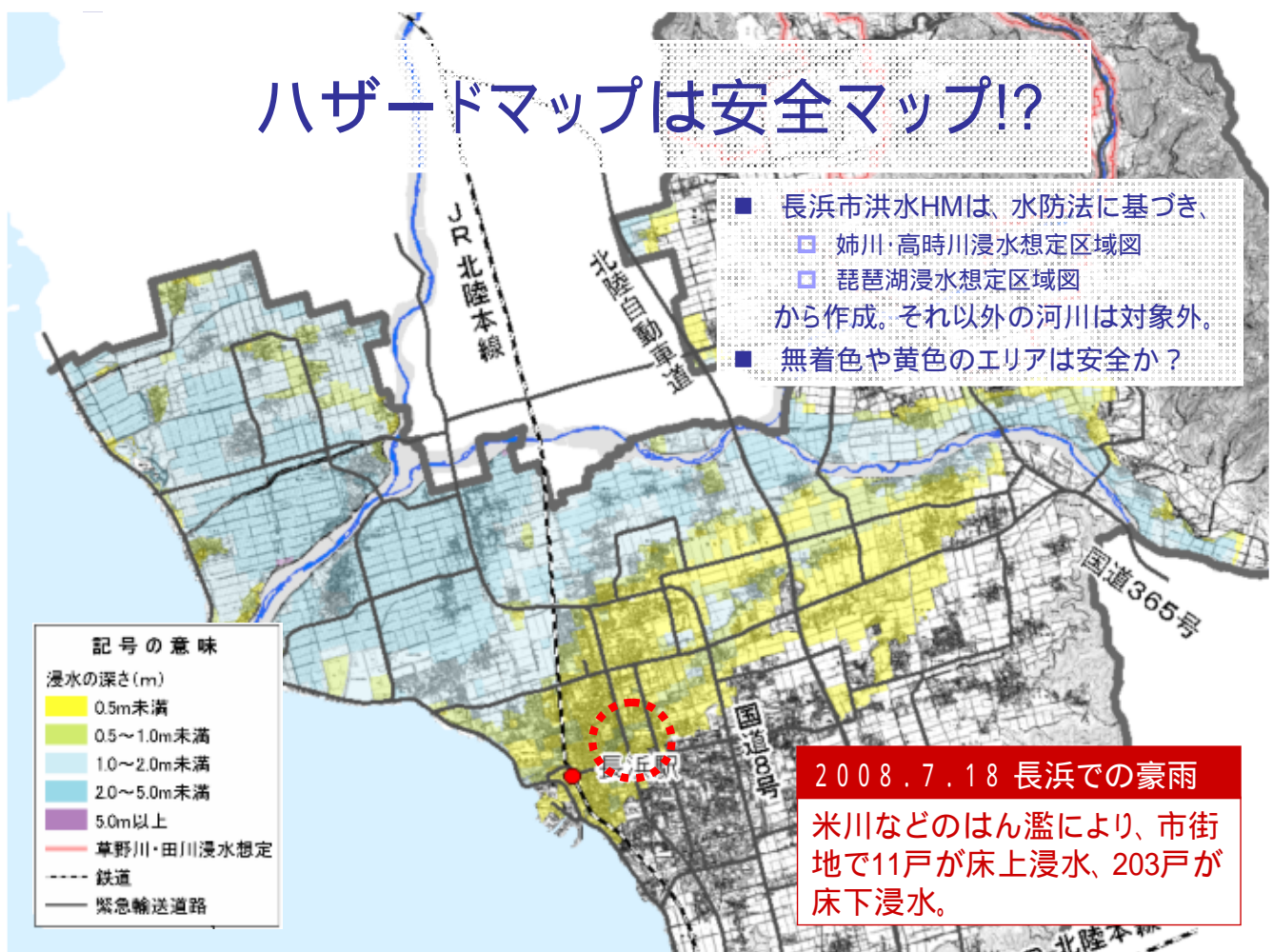


知識・知恵の蓄積と発信

～ 航空レーザー測量(平成18年度)を活用した評価(日本全国で実施)～



ハザードマップは安全マップ!?



2008.7.18 長浜での豪雨

米川などのはん濫により、市街地で11戸が床上浸水、203戸が床下浸水。